北方四島の現状。今，だからすべき領土返還運動。

東海大学海洋学部教授　山田　吉彦

こんにちは。東海大学海洋学部の山田でございます。

実は私、頻繁に広島に来る機会がございまして、今月は、厳島神社の管弦祭に来て船に乗せていただき、半日、洋上で貴重な体験をさせていただきました。

６月には、私ども東海大学海洋学部が持つ望星丸という２,０００トンの訓練船に学生を８０人乗せて、広島港に来させていただきました。

この広島は、学生や私ども海の人間にとっては非常に魅力的な場所です。厳島神社があることは、平家がこの海を世界と結ぶ道の中継点として、この広島を選んでいるということです。

平清盛は、外国と貿易をすることで財をたくわえ、新しい武士の社会を作ろうとしました。その中で経済交流の拠点だったのが、この広島です。その後は、村上水軍です。海賊と言われますが、村上水軍自体はもっと深い意味を持っており、海賊というよりも海の貿易商であり、海の統一者であったとも言われます。

さらに、何といってもこの日本という国は造船大国として成り立ってきたのですが、その根幹は、やはり戦艦「大和」だと思います。学生には、厳島神社と大和ミュージアムの両方行けるというところが非常に魅力的で、また、鞆の浦を始め、歴史的にも学生たちに興味を持たせることができる地域があります。海と一体で生きている場所、それが、この広島県であると感じています。

その中で今日は、日本の海の話について北方領土を中心に話させて頂きます。そして、何をすべきなのかというところも話させて頂きます。

まず、ウラジオストックの写真を御覧ください。これは、私が４月に撮ってきたものです。ウラジオストックはロシアの港ですが、町の真ん中に太平洋艦隊の基地があり、６隻のイージス駆逐艦が停泊しています。実はこの船は、１隻は帰ってきたばかりで、あとの船はいつでも出られる体制になっていました。

なぜかというと、今、日本海が非常に微妙な立ち位置にあるからです。それは、皆様もご存知のように北朝鮮の存在によるものです。北朝鮮がいつ動くか分からない中で、日本海には、４月からアメリカの航空母艦が入りました。そして、実は航空母艦（空母）

が入るというのは、政治的なショーでもあります。空母の姿を見せることで、威圧をしていくのです。ただ、もっと北朝鮮がおびえているのが潜水艦なのです。戦略的原子力潜水艦ミシガンというものが、実はその時期、日本海に潜っておりました。

さらに、４月の半ば過ぎに、プサンに姿を現して、「さあ、これから日本海に消えるぞ」と宣言をして消えました。このミシガンという船は、トマホークというミサイルを１００発以上積むことができます。通常は１５０発までは積めるのですが、この時は９０発ほど積んでおりました。さらにこのミシガンの中には、アメリカ海軍の誇るシールズといわれる特殊部隊がおり、それが６０人乗っていました。上陸用の潜水艦の中におり、いつでも北朝鮮に上陸できるような体制を取っていました。

そのため、日本海が非常に緊張状態になり、実はウラジオストックの港もそのような環境になっていました。

これはまた、同じウラジオストックの別の港、港内の港なのですが、ここに４隻の潜水艦があり、さらに別にあと２隻、潜水艦が止まっておりました。実は日本海は今、何があってもおかしくないくらいの状態なのです。さらにこの状況というのは、昨年から始まっています。私は先週、能登半島に行っていました。今、日本海の排他的経済水域といわれる日本海の漁業権、経済的な権益を持っている海域の中に、昨年８００隻の北朝鮮の密漁船団が入っており、なぜか日本国内で報道されていないのですが、それには実は中国の船団も入っていました。それを具体的に見てきた漁師さんたちの話と漁師さんが撮ってきた映像を確認して、今、日本海がどうなっているのかということを確認してきました。なぜか北朝鮮の漁船が、日本製の無線・レーダーを積んでいました。そのような状況の中で、この日本海は非常に緊迫した事態になっております。

これは当然、日本に対しても非常に影響のある、そもそも日本が中心に問題を解決しなければいけないのですが、このウラジオストックは日露関係においても非常に重要な位置を占めているのです。今年９月にも、安倍さんはウラジオストックに行き、プーチン大統領と会談をします。中でもこのウラジオストックは非常に重要な街なのです。今、このウラジオストックは揺れ動いています。というのは、隣の北朝鮮が動きだす可能性があるからです。北朝鮮が動きだしたとき、中国が日本海に侵出してくる可能性がまた高いです。そのとき、万景峰（まんぎょんぼん）号は、北朝鮮のラジンという港とこのウラジオストックを往復しているのですが、この万景峰号というのは、北朝鮮にとって最後の切り札になるのです。というのは、もしもアメリカが北朝鮮を攻撃する、あるい

は、（北朝鮮が）韓国と本格的に紛争になった場合、朝鮮労働党の幹部とその家族は、万景峰号に乗って日本を目指します。周辺の国で、(日本は)唯一国際法をきっちりと守る国なのです。途中でどこかに消えることもありません。おそらく、朝鮮労働党の幹部たちは、ロシアに入っても中国に入っても身柄を拘束されます。これは、どっちに転ぶか分かりません。ただ、日本だけはしっかりと受け取ってくれる、そういう関係にあるのです。このアジアの国の中で、なぜかいろんな問題があっても、最終的に信頼されているのは日本なのです。

私がこのウラジオストックに行ったのは、昨年のプーチン･安倍会談で、８つの項目の協力関係を築いていこうという提案がありましたが、１年近くたってもなかなか動かないので、安倍政権側から私の大学に対して学術協力の範囲ですぐにでも答えを出してもらいたいのだ、という話があったからです。

そして、東海大学の医学部の教授から海洋学部の私、工学部、あるいはスポーツなど、１５人チームを組み、ウラジオストックの極東総合大学という大学に行って、今すぐ何ができるのかという話をしました。

その中でまず、今、ロシアの問題でもある長寿社会の実現のため、東海大学が指導している健康管理システムを来年には極東総合大学でも実施していくという話をしました。

そして、東海大学の訓練船「望星丸」でウラジオストックに行き、洋上でセミナーをし、日本とロシアの学生も含めて日本海の簡単な海域調査を行ってみようということになりました。

安倍･プーチンの時代において一歩でも二歩でも進めていくことが重要なのではないかと思っており、まさに今、進めて動くべきチャンスが来ていると考えております。

皆様ご存じのように、北方領土の存在というのは、ロシアにとっても日本にとっても重要です。先ほど言いましたように、日本海は非常に緊迫した状態になっています。実は、日本海に入ろうと思うと、入り口というのは非常に限られているのです。これは、富山の団体が出しています逆さ地図という地図なのですが、日本列島を上にしてみた地図です。そうすると、ウラジオストック、極東ロシアに入るためには日本海を通らなければいけません。日本海に入るためには、対馬海峡、津軽海峡、宗谷海峡、どこからかこの海峡のいずれかを通らなければいけないのです。これらは、ほぼ日本の影響下にある海域なのです。

これは、中国にとっても同じです。中国は今、東シナ海戦略、尖閣諸島へ頻繁に姿を見せています。東シナ海を中国の海域としようとする動きをしているのは、実は、この日本列島が太平洋に向かって横たわっているというのが一つの理由なのです。

よく、尖閣諸島で日本が頑張ると中国と戦争になってしまうのではないかと、お考えの方がいらっしゃいます。全くありません。今、中国は日本に対して戦争を仕掛けられる状態ではないのです。もう勝負はついているのです。なぜかと言いますと、この土地の持っている力なのです。

例えば、中国が尖閣諸島に軍を投入して尖閣諸島に上陸し、尖閣諸島を軍事的に占領した場合、日本と中国が紛争ということになります。紛争になった場合、日本は海域封鎖をします。日米の海軍は、沖縄トラフという１,０００ｍより深い海域で潜水艦が潜っているのですが、片や中国は、浅い東シナ海チンタオの基地から出た段階から、日米の海上自衛隊によって、すべて行動が捕捉されており、姿を隠せないのです。片や日米の潜水艦の動きは、中国は把握できません。これは制海権といわれます。東シナ海の制海権は、まだ日米が持っています。もしも紛争になった場合、この沖縄の周辺の海域を日本は封鎖してしまうことになります。となると、中国に物が入らず物資が送られなくなるので中国はまだ、日本に戦争を仕掛けることができないのです。逆に言うと、この日本列島をしっかりと守っていれば、紛争になることはありません。むしろ、威厳を持って日本は海洋国家である、しっかりと海を守っていくんだ、島々を守っていくんだという考えに立脚すれば、平和は維持できるということになります。

このように日本海が非常に微妙な段階になっている中で、極東開発をロシアが進めていく上では日本との協力というのが不可欠なのです。極東開発をしようとしても、物資を送るにしても、シベリア鉄道の終点であるため鉄路では限りがあるということと、時間がかかるということがあります。それに対して海の世界は無限です。

さらに、来年２０１８年には、北極海航路という北極海を通ってロシアと日本を結ぶ新しい航路が開発されます。このことについても、日本の海域というものは非常に重要になってきます。

南下政策の時代、ロシアは、世界へ出ていく海の道を探しておりました。それは大きく３か所あります。１つはバルト海、カリーニングラードという港です。大西洋に出ていくバルト海ですが、すぐそこには当時世界最強の大英帝国海軍が待っているのです。実際に日露戦争の時も、バルチック艦隊は、バルト海を出た段階で、大英帝国海軍にさ

んざん嫌がらせをされて疲れ切ってしまったのです。

そして、次に目指すのが黒海です。ボスポラス海峡、トルコ海峡を通って地中海に出ていきます。ただ、このルートを拡大していこうとするとオスマントルコとの衝突になります。そして、オスマントルコにフランスが付き、結果的にロシアはクリミア半島に押し込められてしまう、これがクリミア戦争だったのです。その時、最後の頼みの綱として求めてきたのが、日本海でした。

ロシア皇帝は、交渉団に対して、１８５５年の段階で指示を出しています。「日本とは経済を重視し、速やかに交渉を成立させること」。要は、極東開発をする上で日本との連携は必要だから、細かいことは言わずにまずは経済を考えて日本の要望を聞きなさいということです。これが、北方四島を日本のものにするということなのです。

当時は、樺太・サハリンは、日本とロシアの両国民が共に暮らす場所ということになりました。とにかく極東開発をしていく、ロシアが世界に出ていくためには、日本との協力が不可欠なのだという判断だったのです。

実は今、ロシアに置かれている状況は全く当時と同じです。石油の価格が乱高下しています。ロシアは、石油とガスを売ることによって国家が成り立っているのですが、原油開発、石油開発に関しては後進国です。

世界の産油国の代表格であるサウジアラビアの原油は１バレル１８ドルで採算が取れますが、ロシアの原油は５０ドルかかるのです。昨年、一昨年、１バレル３５ドルから５０ドルの間ぐらいで推移されました。産油国は油価格を低く抑える戦略をとっていました。この原因は３つ考えられ、１つは、シェールガス、シェールオイルの開発をやめさせるためです。シェールガス、シェールオイルというのは、地底の岩盤に染み込んだガスや石油を水圧をかけて押し出し、それを再利用していこうというものなので当然コストがある程度かかります。無尽蔵にあると言われていますが、コストはかかってしまうので、１バレル５０ドルを切っていたら、シェールガス、シェールオイルの開発はできないのです。

もう１つは、イスラムステートの資金源である石油の価格を低くしてしまうことです。そしてもう１つは、ロシアへの制裁です。これでロシアは石油が売れない、掘れば赤字になってしまうという困った状況になったのです。

そこで、ロシアは天然ガスにシフトしました。ただ、天然ガスを掘って世界へ売っていくには２つの方法があります。パイプラインを作ってどんどん運び出すというものと、

もう１つは液化天然ガスにするものです。天然ガスをおよそマイナス１６０度まで冷やして液体にし、液化天然専用のタンカーで運び出していくのです。

パイプラインはそう簡単にはできません。なので、液化天然ガスを作り、船で世界へ売り出していこうとしました。やはり、運び出せる港は３つです。バルト海、カリーニングラードという港町がありますが、これはロシアの管理下にあります。

ただ、ソ連が崩壊し、バルト三国はＥＵに入ってしまいました。ソ連の港、ロシアの港は飛び地になったのです。積み出し港まで持っていくためには、ＥＵ、しかもＮＡＴＯ軍がいる旧ソ連の敵対する軍隊がいる間を通って行かなければならないのです。

制裁を受けている状況の中で、ロシアは身動きが取れなかったのです。そして、カリーニングラードの次に目指したのが黒海だったのです。そのためにクリミア半島を強引に手に入れたのですが、思った以上に世界の抵抗が激しく、さらに、黒海から出ていくときには、今ロシアが一番苦手な国であるトルコのいるトルコ海峡、ボスポラス海峡を通っていかなければいけないのです。

トルコ国内でロシアの大使が殺されても、微妙に我慢をしなければならないくらいの関係にあります。トルコ海峡は国際海峡として認められておりますが、紛争になればそういう状況にはなりません。そして、クリミア問題がまだまだ尾を引き、長引きそうな状態になっているのです。となると、やはりロシアが天然ガス、液化天然ガスを運び出すためには、日本海がどうしても必要であり、日本と手を組む以外ないのです。

先ほど、学生さんの発表の中に「下手に出なければいけない」とありましたが、実はそういうわけでもないのです。もっとしっかりと政府がやるべきことを考えていただければ、決して下手に出る必要はないのです。私たちは海を押さえており、しかも、世界に冠たる海洋国家なのです。その中で、この北方四島の存在というのは非常に重要なのです。

日本の領海というのは、沿岸から１２海里、約２２．２キロまで日本の国家の主権が適用される領海として主張しています。ただし、５か所の海域だけ、主権を３海里までで放棄してしまっている海域があり、これを特定海域と言います。それが、宗谷海峡、津軽海峡、大隅海峡、そして対馬海峡の東航路、西航路なのです。

実はわざわざ津軽海峡は、(両脇) ３海里、３海里で真ん中を公海に開けているのです。宗谷海峡もそうなのですが、とは言っても当然、津軽海峡は北海道と青森の間にあるので日本が管理をしています。潜水艦が通るのは全て把握しています。実際にはもう通れ

ていません。その中で、今、このウラジオストックに荷物を運ぶためには、当然、この海峡を通っていかなければいけないのです。となると、日本に配慮せざるを得ないのが、今のロシアなのです。ただ、この北方領土問題を考えるときに、いろいろな見方があります。

私は、ポイントはこの択捉と国後の間の国後水道といわれる海域だと考えています。この択捉島と国後の間の３０数キロの海峡なのですが、これは、高田屋嘉兵衛（たかたやかへえ）がこの航路を発見したことでも名前が知られています。この国後水道はロシア名でいうと「エカテリーナ海峡」といいます。深さが４８０メートルあります。

この海域が非常に重要で、そう簡単にロシアは返せないのです。といいますのは、日本海に入る潜水艦の通年の通行路なのです。潜水艦は国際法で決められており、他国の領海を通過する場合には、浮上して国旗を掲揚しなければいけないということになっています。仮に全てを一括日本に返したとすると、当然、国後水道は日本の領海に入ってきます。となると、ロシアの潜水艦は浮上しなければいけなくなります。

なぜ、ここが通年のロシアの潜水艦の航路になっているかというと、冬の間流氷が来ても、深いために下が通れるからです。ロシアにとって、この国後水道というのは一番重要な海域でもあるのです。特に日本海戦略をとるにあたって、国後水道というのは別格なのです。

よくミサイル基地の配備がされているのはこの辺の島なのですが、軍事的な要因は東西冷戦終結後で、あえて北方四島に置く必要もありません。置いたからといって、決して日本は恐れる必要はありません。北方四島に置かれようが、この辺に置かれようが、効果としては同じなのです。むしろ、サハリンに置いていても変わりません。実際にロシアが今、北方四島に配備している軍備というのは、さほど日本の自衛隊にとっても恐るべきものではないのです。ただ、この間の海域の重要性というのは、ロシアにとっては無視できるものではないということを、少し頭の中に入れておいていただきたいと思います。

ただ、その中でロシアは、昨年の安倍・プーチン会談の中で、経済協力８項目ということを求めてきました。私ども、東海大学が協力している健康寿命の増進、快適・清潔で住みやすい活動しやすい都市づくり、中小企業交流・協力の抜本的推進、エネルギー、ロシア産業多様化、極東産業振興輸出基地化、先端技術協力、人的交流の抜本的拡大、がそうです。

要は、読み替えると、ロシア人は長生きができないのです。ロシアの町は決して快適でもなく、清潔でもありません。旧ソ連邦、共産主義の国なので、要は経済社会・市民社会を根本で支える中小企業が育成できておりません。そして、エネルギーを掘れるけど、それをどう扱っていいのかよく分かっていません。ロシアの産業は、まだまだ重工業に重点だけを置かれていて、日本のような先端技術が発展していないのです。

やはり極東を推進していくためには、日本の協力は必要だということなのです。ウラジオストックに貿易港が造られ，空港も大きくなることが必要であれば、先端技術協力を日本としていきましょう。そのためには、人の交流が必要です。慎重になりながらも、関係を作っていきましょうという中で、この日露協力というのが、要は、もう進み始めているのです。

ここに立脚した形で，北方四島における共同経済活動というものが進められていきます。漁業・海面養殖・環境・医療，その他。その他には，観光などが入ります。経済的意義のあるプロジェクトを形成していくのです。ただ，忘れないでいただきたいのは，よく経済特区の話が出ます。色丹島に経済特区を作る。ただ，北方四島は１万７，０００人の経済なのです。過大評価をしてはいけないのです。しっかりと日本の経済人たちや，皆様の目で見ていけば，市民の目で見ていってもやるべきことはたくさんあるのです。何で１万７，０００人かというと，これは，この北方四島に住める人間のキャパシティーなのです。日本人が開発して住んだのが，１万７，０００人だったのです。要は，日本人が開発した社会，島々だから，人は生きていける。それが１万７，０００人なのです。それ以上，実は北方四島，あまり進歩はしていないということが言えます。その中で日本が，どう協力していくか，漁業，海面養殖などです。

実際に，今，一番重要なことは北方四島を，いつ返す，返さないかというような話より，まずは，北方四島を日本化してしまうということです。もう一度，日本の社会に組み入れていきましょう。国境線を変える前に，日本社会に組み入れてしまいましょう。１万７，０００人の社会なのです。１万７，０００人の経済なのです。隣にいる１億３，０００万人の世界３位の経済大国の日本の力，経済力をもってして日本化してしまう。北方四島に，例えば観光資源開発をして，観光が入っていくと，あっという間に日本化します。これは反対に言うと，ちょっとあんまり話したくないのですが，嫌な例があります。嫌な例というと失礼かもしれませんが，対馬です。対馬は，隣の韓国から，年間３０万人近い観光客が来ているために，ハングルが氾濫しています。ビジネスも韓国人

相手にしないと成り立たない。気づくと土地も買われています。

北方四島に観光客が入り，日本円が入る。日本人を相手にしないとビジネスができず生きていけない。あっという間に日本化します。対馬は，まだ本土からすぐです。でも，わざわざロシア人は北方四島に行かないです。漁業もそうです。ロシアも日本と協力し，日本により多く買ってもらう。そして，日本の効率のいい漁業を見習っていく。

養殖はロシアも，今，資源の枯渇が騒がれており，日本と共に育てていく漁業をしないと，北方四島にいる１万７，０００人は，暮らせないのです。逆にいうと，対岸の根室の魅力を見せてしまう。根室の漁師さんの年収は，１人１，０００万円近くになっています。サケ・サンマ・ウニ・カニ，同じ海域の魅力的な魚を扱っており，すぐ隣に住んでいる半島の漁師さんは１，０００万円なのです。実は，日本の経済で一体化してしまうことによって，北方四島は，事実上，日本のものになっていくわけです。

ただ北方四島も，例えば，医療もそうなのです。北方四島に住んでいると，当然病院は小さい病院しかありません。日本が協力した病院です。むしろ，日本の協力によって医師団が行くと，もう列をなして待っているのです。

昨年，色丹の病院に行ったのですが，新しい病院ができていました。中を見せてくれと言ったら，「いや，ちょっと見せられない。今日は日曜日だから」と言っていたのですが，実際には，まだ，機械が使えるだけの体制を取っていないのです。「有効に機能していますか。」という話をしましたら，「有効に機能していたら，日本の医師団に来てもらう必要はない」と言っていました。

北方四島にお住まいの方やビザなし渡航で来られる人，ロシア側からも，相当数の方がやってきて，日本で医療や健康診断を受けます。国後の方で女性の方が，自慢げに去年，日本の病院でガンの検診をしてもらったのでこれで安心だと言っていました。健康も，日本が預かっているのです。命を預かってしまうのです。

命を預かるということは，大事なのです。医療協力というのは，そういう意味でも，非常に重要なのです。どんどん北方四島の方を日本に呼んで，根室で検診をしてもらう。そのために，根室のしっかりした病院や医療機関が必要になってきます。

大上段に「返ってくる，返ってこない」を叫ぶ前に，やれることはどんどんやって，そして，日本化してしまう。日本をなくしては，生きられない島に戻してしまうことは，私は有効であると考えています。必然的に，そして，プ−チンの目的は，あくまでも極東開発です。その中で，しっかりと日本人が暮らせる島に変えていく必要があろうかと

思います。

日本というのは,非常に広い国です。北は択捉島から南は沖ノ鳥島,東は南鳥島から,西は与那国島。東西南北３，０００キロあります。その中に，６，８５２の島があります。実は日本,「狭い日本そんなに急いでどこへ行く」という標語が昔ありましたが，全然狭くないのです。陸地の面積は，国連加盟国中６１番目です。しかし，海の面積，海の面積というときに，領海といわれる主権を持っている海域と排他的経済水域，沿岸から２００海里，３７０キロまでの経済的な権益が認められている海域，これは国連海洋法条約という条約で認められているのですが,合わせますと世界で６番目の広さなのです。実は，海は，陸の広さは６１番目だけど，海は６番目に広いのです。この海を使って,日本をますます豊かにしていく。

この海には海底資源がたくさん眠っています。まず，メタンハイドレートといわれる天然ガスが,静岡の沖ぐらいから和歌山の沖,そして,四国沖にたくさん眠っています。メタンハイドレートというのは，メタンガスが水の分子と共にあり，高圧・低温，圧力がかかって温度が下がると，メタンの分子を水の分子が包み込み，シャーベット状になります。これが日本の海底にたくさん眠っています。実は，北海道にもたくさん眠っています，この辺にも眠っています。

このガスは，日本人が使うガスエネルギーの９４年分で，日本の海域に眠っているといわれています。ですが，これも過去の話なのです。どんどん発見されて，もう１００年分を超えているのです。このガスが使えるかと言いますと，今年も試掘をやり，まだ課題は残っていますが，実際にはもう試し堀も成功しています。あとは，いずれ本格的に,実際には来年,それを商業化するための企業群が立ち上がります。もう使うのです。

ただ，なかなか一般的に普及しないのは，今，天然ガスを買っていた方が安いからなのです。サウジアラビア，あるいはカタール・中東・オーストラリア・ロシアから買った方が安いからなのです。

日本は第二次世界大戦の前のように，エネルギーを遮断されたとしても，自前でエネルギーを獲得することがもうできるのです。１００年分もあるのです。その間には，自然再生エネルギーあるいは燃料電池，日本人の持っている新しい技術で，どんどん開発できます。そして，それ以外にも，メタンハイドレート以外にも，海底熱水鉱床ともいわれる一種の海底鉱山が日本の周辺でかなり発見されているのです。

今年から沖縄の，伊是名（いぜな）・伊平屋（いへや）沖といわれる海域では，沖縄

本島の少し西側なのですが，この海域で金と銀を含んだ海底熱水鉱床の実証実験が始まりました。さらにいうと，久米島といわれる島がありまして，沖縄本島のすぐ南なのですが，この久米島沖の海底熱水鉱床は，海上保安庁が発表したデータによりますと，掘った海底の土砂の１３％が銅でした。この銅が，１３％も入っていたら，採算が取れてしまいます。実は，東京にも，青ヶ島という島がありまして，その近くの海底熱水鉱床では，金が通常の金山の百倍以上，含まれています。ただ，量的に多くないので，東京オリンピックの金メダルぐらいはできると思いますが，それ以上は，拡大できるかどうかというところです。ただ集中して存在していることは分かっています。実は日本の周りには，希少金属がたくさん海に眠っているのです。さらに，日本人は既にいっぱい買ってきました。パソコンの中，携帯電話の中，自動車の中にも，希少金属がいっぱい入っています。これは，再生利用されており，どんどん進んでいます。東京オリンピック・パラリンピックのメダルは，携帯電話から集めた金で作ろうという動きもあります。

実は日本は，かつてのように，「資源を売らない。だから，言うことを聞け」。「エネルギーを渡さない，だから，言うことを聞け」と（他国に言われることはないのです）。あるいは，エネルギーや資源を求めて世界中に拡大していく必要もないのです。最後は自前で調達できるのです。となると，威厳を持って交渉を進める話ができる。卑屈になる必要など全くありません。しっかりと日本人は主張をしてくべきなのです。その時代がようやく訪れてきたのです。最も，戦争の痛みを分かっている日本人です。過酷な状況を経験した日本人だからこそ，これからはしっかりと世界平和の維持となるために，声を上げてゆく時期が来ているのだと思います。

そのためには，北方領土問題をしっかりと解決していかなければいけません。私は，まずやるべきこととして，日本人は，この北方四島を，ビザなし交流も含めて，前向きに捉え，積極的に関与し，声を上げていくことにより，日本化していく。これが重要だと思っております。

ただ，先ほど言いました北極海航路ですが，地球温暖化の影響で，船が７月から１１月までは通れます。北極海を通ると，今，既存のスエズ運河を通ると，１万１，０００海里なのに，６，９００海里となり，燃料も時間も３分の２なのです。そこで短い夏の間，この北極海航路をできるだけ通りたいということです。来年２０１８年にこの商業航路が始まります。ヤマルというロシアの天然ガスの基地から液化天然ガスを，北極海を通り中国まで運びます。その専用船が今，造られており，日本も商船三井が３隻，す

でに造っています。世界的にいうと，１５隻造られます。北極海航路が来年から始まると，当然ロシアが主導になります。ウラジオストックにアジア中の荷物を集めて，北極海に運び出します。今まで青島(チンタオ)とか，あるいは上海，中国の港が主流だったのが，ロシアの港に移そうとします。日本は，今まで神戸や横浜・東京，主要な港が世界の中心だったのが，あっという間に香港・上海・青島・大連，中国に港を取られ，ハブ機能を取られてしまいました。なぜかと言うと，通常のルートを通ると，日本より先に中国の港が来ます。北極海航路を通過する場合，今度は逆になり日本が先に来ます。そして，日本の苫小牧・鹿島・清水，外洋に面した港というのが，有効に利用されるようになり，ロシアはロシアとして，このウラジオストックに荷物を集め，日本海を通過し，世界へヨーロッパと結んでいこうとします。となると，やはり日本の海域は，非常に重要なのです。日本と共に海の安全を守るというのは，ロシアに必要不可欠な意味を持つわけです。決して，ロシアは日本との紛争を，日本との対立を求めることはできないのです。

今，日本は，もっともっと要求を明確にしていい時期に入っていると思います。ただし，問題なのは，今日，皆様にお集まりいただきました団体の方々が苦労されていることだと思います。私は日本中を回っておりますので，苦労はよく分かります。これもう（平成）２０年のデータなのですが，「北方領土返還運動に参加したい」，「機会があれば参加したい」，「積極的に参加したい」合わせて３４％。「あんまり参加したくない」，「参加したくない」，６０％。６割の人が参加しないと言っています。

これは東海大学と根室市で調査をしました。実際に２万７，０００人ほどの根室市民の方のうち，二十歳以上の方，１，０００人から有効回答をもらいました。１，０００人の方のうち，「北方領土運動に参加したいと思いますか。」という問いに，「参加したい」２４％，「多いに参加したい」６％，計３０％，「あまり参加したくない」１７％，「参加したくない」１４％，計３１％。「答えられない，どちらともいえない」という人がたくさんいました。

実際に，根室においても，北方領土問題というものが薄れていますので，ここから改善していかなければいけません。例えば自然ということを考えますと，北方領土がどれだけ魅力的なものなのかということです。私は，北方領土にビザなし渡航で何度か行かせていただきました。北方領土周辺にはシャチやラッコもいますし，必ずといっていいほどイルカも鯨も見ています。白いヒグマも渡り鳥もたくさんいます。日本側では，ほ

ぼ枯渇してしまい始めている水産資源も北方領土側には，まだ残っています。お互い協力しながら，水産資源の復活・再生，そして自然保護を求めることもできるのです。

そう考えてくと，まずは北方領土の魅力を伝えていくということが何より必要ではないかと思います。北方領土が返還され自由に行けるようになれば，どれだけよいか。まずは根室から変えていく。北方領土に渡る観光客，あるいは北方領土との取り引き，その窓口として根室がなると，あっという間に，この辺は，こっちの青（参加したい）に変わっていくことになります。「参加したくない」と言っている方も，「参加したい」に変わってくることになります。まずは北方領土の魅力，そして交流は，何せ，もう時間がたち過ぎています。だから，一つひとつ前向きに，改善することを考えていかなければいけない。

これが北方領土の現状なのですが，これは私が，４年前撮影した写真です。面白い写真も撮ってきたのです。これは，見る人が見ると北方領土の土木工事がどういうものになっているかが分かるそうです。要は，石ころの上に直接アスファルトを載せているのです。これが北方領土の舗装なのです。昨年同じ場所に行きました。排水工事もなく，水が染み込むので，すでにこの道路はゆがんでいました。冬は凍り，春に溶けます。３年も経つと，道路は壊れます。

メンデレーエフ国際空港はしっかり出来上がっているようですが，離着陸するのに，管制塔には電気がつきませんでした。まだ管制機能は有視界飛行だけです。この写真は４年も前に撮った写真なのですが，メンテナンスという概念がないために，３年目にして，もう土台がゆがんでいるのです。

国後にできた大統領の教会といわれ，メドヴェージェフが行ったときに造り替えた，象徴的な教会の神父さんと話をしました。国後島は７，０００人ほどの人口です。「信者の方は何人いらっしゃいますか」という質問をすると，悲しそうな顔をして神父さんは，「４０人です」と言いました。ちなみに同じ質問を読売新聞の記者にしてもらいましたら，７０人と答えたそうなのですが，見えを張って７０人なのです。実際７，０００人のうちの４０人なのです。ロシア聖教の教会の信者は４０人，ミサに来るには４０人しかいない。「どうしてですか」と聞くと，神父さんは，この島の人は島に責任を持っていないと言いました。

教員の給料は本土の 1.4 倍なのです。しかも，宿舎はもらえる。一般企業は 1.8 倍なのです。モスクワの 1.8 倍の給料をもらって働きに来ているのです。そして，年金も優

遇制度があり，ほぼ２倍になります。３０年が上限ですが，５年働くと１０年働いた資格がもらえる。１５年働くと３０年も働いた資格がもらえる。私が北方領土の人口構成を調べましたら，４０代が激減するのです。要は，倍近い給料を夫婦でもらって，一生懸命働いて，１５年たったら帰ってしまうのです。貯めたお金で都市に行き商売を始める。ちょうど，それがお子さまの年齢とも合うわけなのです。北方領土には，日本でいうと高校に相当する学校までしかないのです。芸術学校がありますが，大体（高校を）出た子供たちは，（島に）いても仕事がないので，本土に，あるいは大学も本土に行ってしまいます。そのために一家そろって，４０代になると，離れてしまします。そして，また若い世代が入ってきます。だから，教会になど行かないのです。

今，必死になってロシアは子供たちを入れ込む政策をとっていますが，郷土愛はない３世代目が出てきているのです。ふるさとを持っている人たちがいますが，この４０人なのです。逆に，この４０人の方々は，ビザなし渡航で頻繁に日本に来ている方々が多いのです。むしろ，日本にシンパシーを持っており，共に生きることが不可能ではない一緒に暮らせる人たちなのです。そのときに日本のお金が入っていく，日本の医療が入っていく，日本の教育が入っていく。これはもう日本化なのです。

日本の一番西の島に与那国島という島があります。ここに自衛隊が昨年配備になりました。さんざん反対だと言われましたが，自衛隊が配備され実際に入ったら，島は自衛隊賛成一色になりました。反対派は今，数人なのです。なぜかというと，自衛隊は計画的に配備をしており，１，５００人ほどの島に１６０人の自衛官と家族合わせて，２４０人入りました。自衛隊は，子供の年齢を考えました。与那国に行った人は皆，実は志願隊員なのですが，お子さんの年齢まで全部調べて入れたのです。与那国は複式学級といい，１・２年生で先生が１人とか，全学年に先生は就かなかったのですが，それまで計算して，自衛隊はお子さんを入れ込んだのです。その結果全ての学年に先生が就きました。そうすると，お子さんのいる家庭は，自衛隊のおかげで自分の子供の教育はしっかりしてきていると考えます。与那国の平均年収は１５０万円ですが，自衛隊の方の給料は本土の計算で，年収が４００，５００万近いものであり，消費活動を行うわけです。今まで，あまり商品も来なかったものが，自衛隊がいるおかげで，どんどん沖縄本島の方からも商品が送られてきて，欲しいものが買えるようになり，あっという間に雰囲気が変わるのです。そして，いざとなれば自衛隊が医療も協力してくれる。そういう体制を取ってしまうと，町はあっという間に変わってきます。

同じように北方領土も日本化させてしまうことです。国民が北方四島を忘れてからでは，手遅れなのです。今だからこそ，やれることから始め，一歩でも二歩でも進めましょう。

例えば，小さな動きからかもしれませんが，北方四島からビザなし渡航，あるいは子供たちが日本に来て，皆様のところにホームステイさせていただく，あるいは会話をしていただく，そのときに日本を好きになり，この人たちと一緒にいたら，こんなすばらしい国の人たちと，共に暮らせることができるのだ。こんなすばらしい人たち，こんなすばらしい社会と一体化できるのだということを教えていきましょう。

私は，今までこつこつとやってきた北方領土返還運動は，間違っていないと思います。「日本に返されても困る。でも，日本人と一緒に住みたい。」これがロシア人の本音だと思うのです。一緒に暮らして，何の不都合もなければ，あっという間に北方四島は日本化していきます。

そこで，次のステップとして主権を取り返す。択捉島のギドロストロイという水産加工工場にしても，日本の技術をもって，日本に売ることができれば，同じ海域のサケを使っているので，同じくらいの商品を作ることができ，日本に買ってもらえます。人件費は５分の１ですから，当然ビジネスとして成り立つわけです。そして，島が発展していくと考えますと，まずは日本海です。そのためには，今まで踏襲してきた北方領土返還運動を諦めないでください。間違っていなかったと思います。さらに進めていきましょう。さらにできることを，１個でも２個でもやっていきましょう。

そして，自然という切り札も重要だと思います。実は，国後・択捉の自然体系は，もう世界遺産・知床の延長線上なのです。世界遺産にしてしまうというのも１つの方法です。そうすると，ロシアが心配している日米の軍事拠点は造りにくくなり，造れなくなります。自然も一つの経済であり，そして環境です。私はやれることは，まだまだたくさんあると思います。そして，こつこつやっていくことが，何よりも北方領土返還運動に結びつくのです。

再三言いますが，１万７，０００人の社会です。皆様の力で変えることは不可能ではないのです。まずやるべきことは目の前にあることです。少しでも私なりに，そして皆さまなりに進めていくことが重要であろうと思います。

本日は，お時間をいただき，ありがとうございました。